



小国中学校 学校だより



令和3年3号
文責 狭間



「2021年 暑くて熱い夏」

二学期が始まり気がつけば9月も終わり、10月になりました。

夏休み中の本校生徒の姿については、先月号（第2号）で部活動を中心にお伝えしたところでしたが、今号では学習面での取組を紹介させていただきます。

夏休み中に、7・8年生は「夏休み課題」の進み具合を確認する日を設けていましたが、9年生は来春の進路決定に向けて、自ら学習計画を立てて取り組む力を高めたいとの思いから自主学習会を中心とした取組でした。これは学年主任の林教諭が企画し、学年担当職員全員が交替での対応でしたが、その学習内容は参加生徒各自の計画に一任されており、学校からの課題に取り組む生徒もいれば、タブレットドリル（本年度から小国町より全生徒分購入していたタブレット用教材）を活用して五教科の強化を図る生徒もいました。

特にタブレットドリルの取組については、どの生徒がどれだけ取り組んでいるのか、どの難易度の問題に取り組んだのかが職員のタブレットでも一瞬にして把握出来るようになっており、生徒の頑張りを学年部職員は目を丸くして喜んでいました。この自主学習会には、ほぼ毎日参加していた生徒もおり、熱心に学ぶその姿は、これからの学年部取組の軌道修正につながっていくはずです。

また、先号でお知らせしました町民センターで開催されていた「地域未来塾」では、本校卒業生の波多野遊然さん親子が指導にあたってくださいましたが、校内での自主学習会にも、これもまた本校卒業の高校生が指導に参加してくれる姿もありました。

何よりも心強い先輩たちの姿に接し、9年生の次年度以降の姿が重なって見えました。それは本校が育てたい生徒の姿でもありました。



【頑張っています】

「感謝申し上げます」

私にとっての学校の一日は、グラウンド整備のために走り回る車のエンジン音で始まります。この二学期から、その整備用の車輛が一新され、軽快なエンジン音が響いています。一学期まで使用していた車輛は長年の酷使が重なり、トラブル続きとなっていました。その状況を見かねて保護者の河津自然さんが無償提供してくださいました。

毎朝、率先してグラウンド整備にあたってくれる坂本昌彦教諭も気持ち良さそうにハンドルを握る姿があります。あらためて感謝申し上げます。



【自らの計画で】



【温かな応援団】



【ご支援に感謝】



【本校グラウンドを守ります】

「にこにこ」

9月22日（水）は、一学期より延期していた体育大会を開催させていただきました。本来であれば5月に計画していた大会ですが学校内外の各種行事との日程調整がうまくいかず、生徒の参加を最優先するために、9月に順延し、しかも平日開催とさせていただいた次第です。また、9月に順延したことで、多くの方々にご覧いただける状況に好転していることを期待していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況が厳しく、昨年同様の9年生の保護者の方々（各ご家庭お二人）のみとさせていただきました。当日は「おぐちゃん」や「FM 小国」のご協力をいただきましたが、画面越しに、あるいはスピーカー越しに会場の雰囲気だけでもお伝えできたらとの思いでした。特に「FM 小国」では本校の伊佐教頭をゲストとしてお招きいただき、生放送で会場の様子をお伝えする機会をいただきました。こういう伝え方も小国町ならではのことであり、地域の学校としてのありがたさを実感しています。（町外にお住まいの方々にはそのいずれの機会もなかったこと、申し訳なく思っています。）

開催日当日は前日からの雨が残り、開始時間を遅らせてのスタートでした。計画では24日（金）を予備日として設定していましたが、生徒（特に9年生）が誰に見て欲しいのかと考えたときに、保護者さん方が時間を調整して待ってくださっていたであろうこの日に何としてでも実施したいと考えてのことでした。

今年の体育大会に際しては昨年同様、新型コロナウイルスの感染対策を講じる必要があったことに加え、台風14号の影響が予想以上に長引いたことで、活動内容・時間・場所等、制限される中での練習・準備でした。

しかしながら、「例年どおり」のことができないのならば、「今年ならではの特別な大会にする」という生徒と職員の前向きな思いに支えられ、生徒会本部や体育委員長、両団長、そして9年生を中心に、各学年が精一杯、練習に準備に取り組んでくれました。その姿は、小国中の伝統を引き継ぎながらも、新しい歴史を作ろうとする活気あふれる姿でした。

練習を重ねるたびにうまくなり、たくましくなる姿。あるいは任された自分の役割の責任を果たそうとする姿。それら全ての姿に成長を感じることができました。

大会スローガンの「にこにこ～勝ち負けにこだわらない181色の熱き闘い～」には、全員が勝つために全力を尽くしながらも、その勝敗の先に「笑顔で互いの健闘を讃え合いたい」という思いを込めていたとのこと。そこにはSDGs学習で学んできた「誰ひとり取り残さない」という考え方があってのスローガンでした。

全ての条件に恵まれ、順調に取り組めることは理想ですが、今回のように常に創意工夫が求められる状況に対して、柔軟に対応する力を示してくれる生徒と職員それぞれの姿を眺めながら、これからも生徒はもちろんのこと、ご家族の皆さんや職員、そして地域の方々にとって、「にこにこ」笑顔が溢れる学校でありたいと思っています。

【お伝えしたいことはたくさん】 →



【 全力で 】



【 華麗に 】



【 力強く 】



【 軽快に 】



【 柔軟な発想で 】



【支える力があってこそ】



【 全員の願いを込めて 】